

# 「地力発掘型インターンシップ」

平成29年度 地域創造インターンシップ I  
(地域創造学環 選択科目 2年生対象)

静岡大学 学生支援センター  
キャリアサポート部門  
宇賀田栄次

# 29年度地域創造インターンシップ I 授業目標と学習内容

履修対象	地域創造学環2年生(51名が履修)
担当教員	岩田孝仁, 橋本誠一, 浅野秀浩, 宇賀田栄次, 佐藤直樹
授業目標	<p>【知識】組織活動に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>【能力】組織の業務、運営等に関する情報を的確に収集・分析し、課題を発見することができる。課題解決の方向性と手段について考えることができる。</p> <p>【関心等】組織活動の有する多様な社会的価値を理解し、共有する。</p>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本科目は、静岡ロータリークラブの会員企業においてインターンシップ(実習)を行う、静岡大学と静岡ロータリークラブの教育連携講座である。なお、フィールドワークが「地域」を対象とするのに対し、インターンシップの対象は企業・団体という「組織」であるということに留意してほしい。また、インターンシップは、受け入れ先に所属する社会人から指導と評価を受けることが大学内で行う講義と異なる点であり、そのことが大学での学びや自身の成長を検証する貴重な機会にもなる。</li> <li>• 学習内容は、事前学習、実習、事後学習の3つの段階を経る。事前学習では、インターンシップの現状と課題、企業の知的資本(目に見えない企業価値)を理解するとともに実習に必要なマーケティング知識やビジネスマナーを習得し、実習での目標設定を行う。実習先は、個人面談の上決定する。事後学習では演習形式あるいは個別に、実習での振り返りを行い最終レポート(パワーポイント資料)の作成し、成果報告会を行う。</li> </ul>

# 静岡大学 地域創造学環

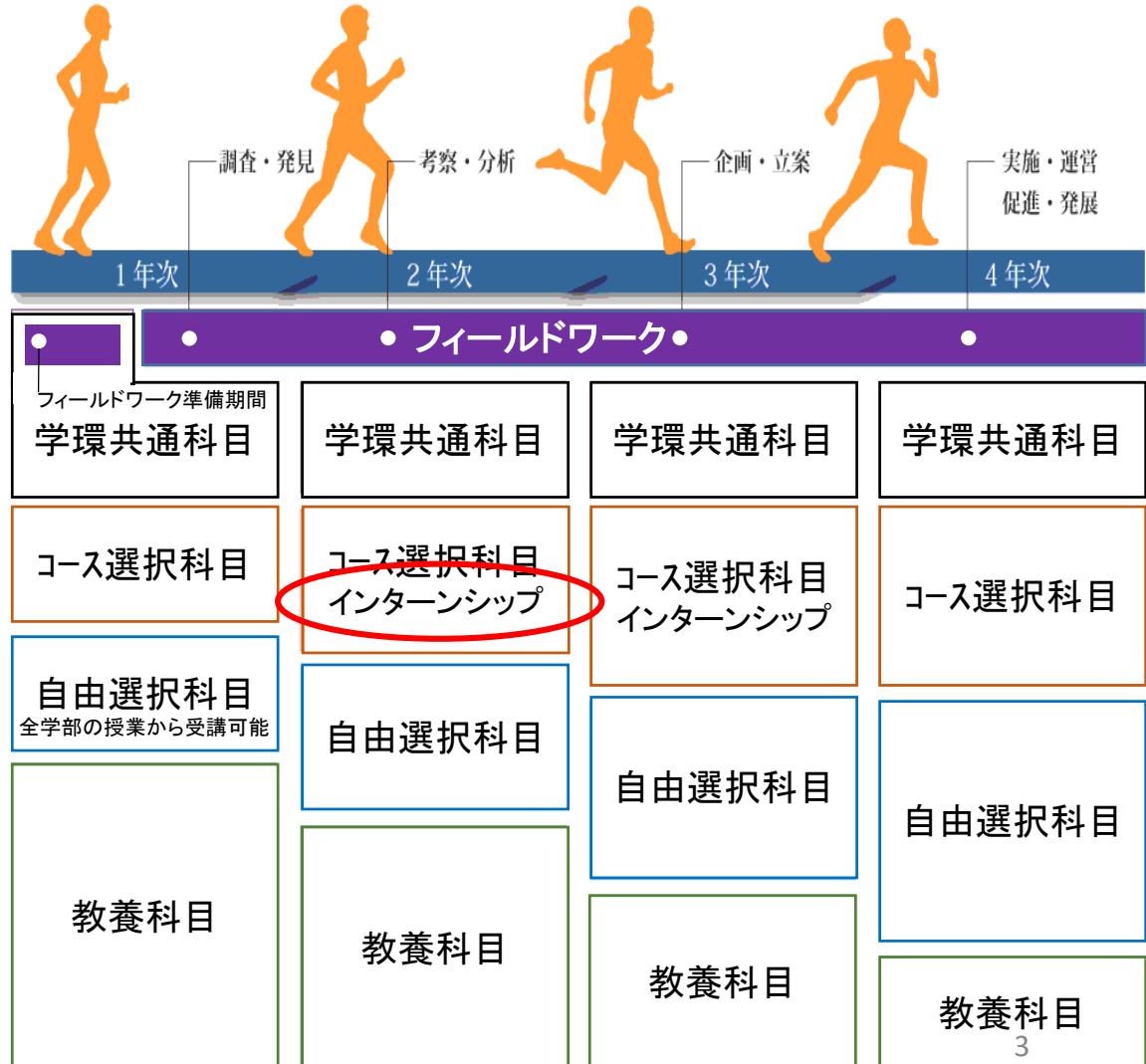


## 地域創造学環 SCHOOL OF REGIONAL DEVELOPMENT

地域のクリエイティブリーダーを育成します。

静岡大学で平成28年4月からスタートした新たな教育プログラム(定員50名)。このプログラムでは、静岡大学の全ての学部(人文社会科学部、教育学部、情報学部、理学部、工学部、農学部)の授業を履修することができる。幅広い教養と高い専門知識を身につけながら、積極的に地域(フィールド)に飛び出して学んでいくことが大きな特徴。地域が抱える様々な問題と向き合い、その解決策を地域の人々と考えながら、より魅力的な地域社会の創造に取り組むことができる人材を育成する。

- 地域経営コース
- 地域共生コース
- 地域環境・防災コース
- アート&マネジメントコース
- スポーツプロモーションコース



# 29年度地域創造インターンシップ I 自己学習課題と事前学習

## 自己学習課題

課題1) 「インターンシップによる企業と学生の地力発掘」(宇賀田栄次・佐藤直樹, 「静岡大学教育研究」No.13) を読んで、大学におけるインターンシップの現状と課題について述べよ。(図表を除いて800字以上1,600字以内) ※課題1) については上記を除く参考文献としての著書、または論文も挙げること。

課題2) 「リーダーシップ」、「チームワーク」、「コミュニケーション」、「チャレンジ」のうちどれか1つを選び、それに関連する書籍を読んで、自分なりの考えをまとめよ。(図表を除いて800字以上1,600字以内)

## 事前学習

木曜日 12:45-14:15 共通教育棟にて

6月1日	グループワーク 「リーダーシップ」「チームワーク」
6月8日	グループワーク 「コミュニケーション」「チャレンジ」
6月15日	講義「インターンシップに必要なビジネスマナーと質問力」
6月29日	講義・演習(株式会社販売促進研究所) マーケティング 第1講
7月6日	講義・演習(株式会社販売促進研究所) マーケティング 第2講

# 29年度地域創造インターンシップ I 学生が授業を通じて追究すべきテーマ

リーダーシップ

チームワーク

コミュニケーション

チャレンジ



ゴール：実習を通じて、体験に基づいた「自分の言葉で表現」

(参考) 静岡大学 ディプロマポリシー

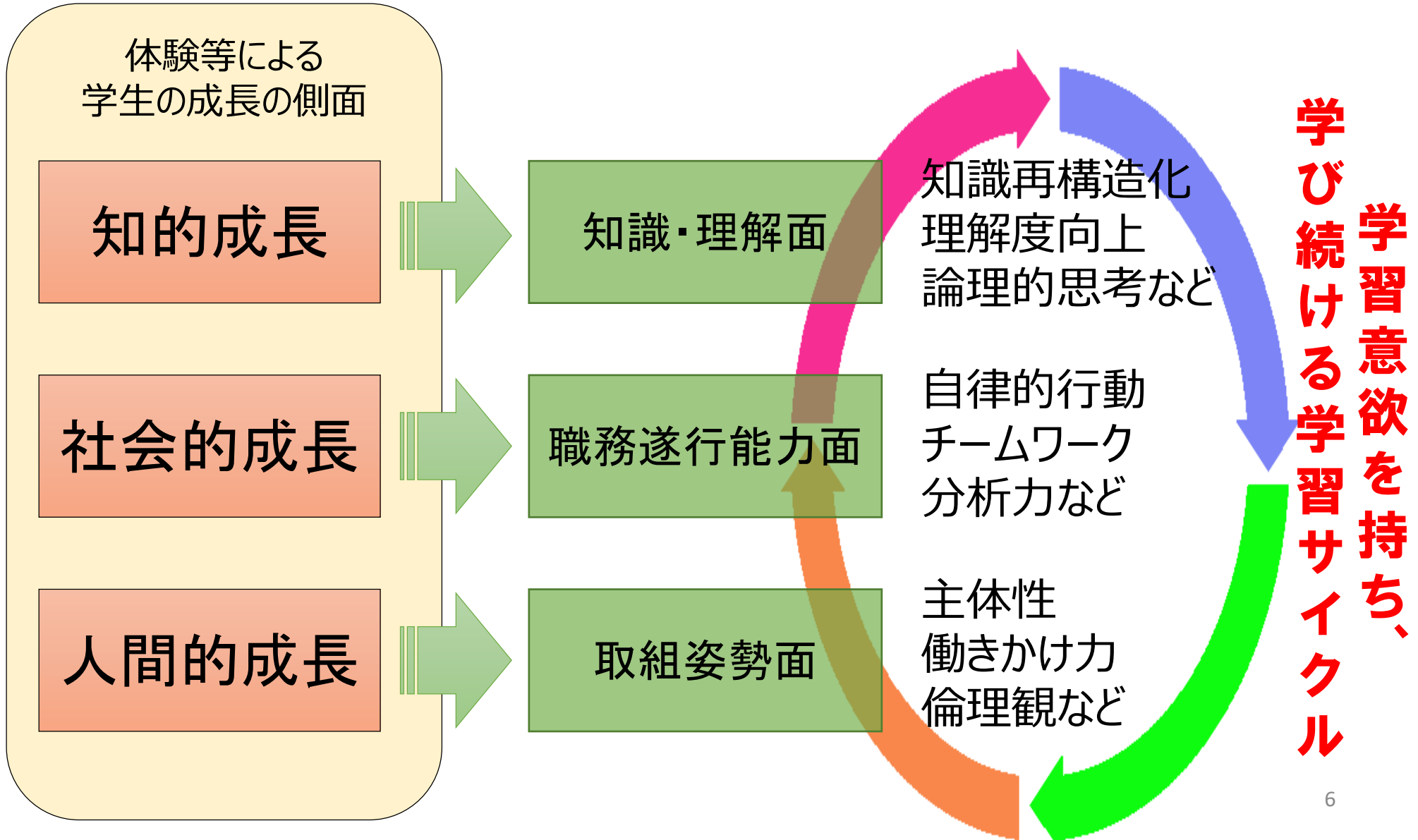
1. 専門分野についての基本的な知識を習得し、これを社会の具体的文脈のなかで活用することができる。
2. 外国語を含む言語運用能力、情報処理、キャリア形成等の基本的スキルを身につけている。
3. 多様性を認め、幅広い視点から物事を考え、行動することのできる国際感覚と深い教養を身につけている。
4. 主体的に問題を発見し、自らのリーダーシップと責任のもとで、様々な立場の人々と協同して、その解決にあたることができる。

(参考) 経済同友会 提言「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待(2015)」

- ・変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力(課題設定力・解決力)
- ・困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力(耐力・胆力)
- ・多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める力
- ・価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力(コミュニケーション能力)

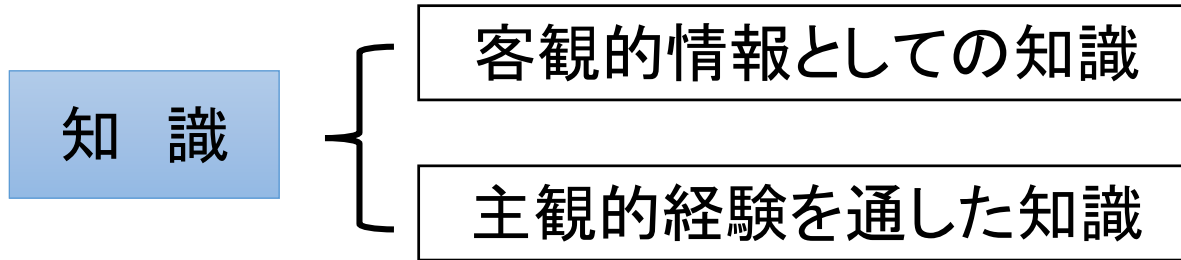
# インターンシップの教育的効果とは何か

参考：河井亨・溝上慎一「日本の大学における『体験の言語化』の意義」2016



# インターンシップの「教育的効果」への仮説 体験と知識

参考：安西祐一郎『問題解決の心理学』中央公論社 1985



自分の経験を通して身についた知識でなければ、自分にとっての問題解決のためには役に立たないし、そこから新たな知識が得られない

参考：諏訪正樹・藤井晴行『知のデザイン 自分ごととして考えよう』近代科学社 2015

簡単に知識や情報入手できる環境が揃っているがゆえに、あたかも自分が学んだかのように勘違いし、受け売りのように他者に説くことも簡単にできてしまいます。知識や情報が世に氾濫する時代であるからこそ、それをからだで取捨選択し、からだで体感し、自分なりの意味や解釈を醸成する「自分ごととしての学び」を指向しないと、頭だけで知識や情報処理してわかったつもりになる癖がついてしまいます。



インターンシップという体験を通して、「問題解決に使える知識」として再構築することが大切

# インターンシップの「教育的効果」への仮説 大学での学びと知識

大学教育（研究活動）のステップ＝学生自身が学習の主体者となる



参考：井下千以子『大学における書く力考える力 認知心理学の知見をもとに』東信堂 2008

！知識を自分に引き寄せて意味づけし、学んだこと学んでいることを自分のことばでいかに表現できる  
！かに大学での学びの本質がある

参考：井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門 論理的な考え方・書き方からキャリア  
デザインまで』慶應義塾大学出版会 2017

！問いを立てる、調べる、集めた情報を分析する、議論する、論理を組み立てる、書く、発表するという一連の学問の思考法によって得た知識を学生自身が自分にとって自分の人生において意味ある知識として再構築できるかどうか、そこに大学教育の真価が問われている



インターンシップを通して得た知識を「自分にとって意味ある知識」として再構築することが大切

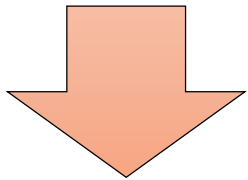


体験を学びに変える（自分の意見や考えを述べる）ために

# 事実

例：コップに水が半分  
入っている

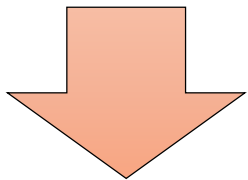
データ, 情報リテラシー, 知識,  
1次資料, 体験, 現場, 読  
書, 質問, 行動



# 解釈

例：半分しかない／  
半分も残っている

多角的, 複合的, 客観的,  
異文化, 知識, 理解力,  
捉え方, 見方, 認識



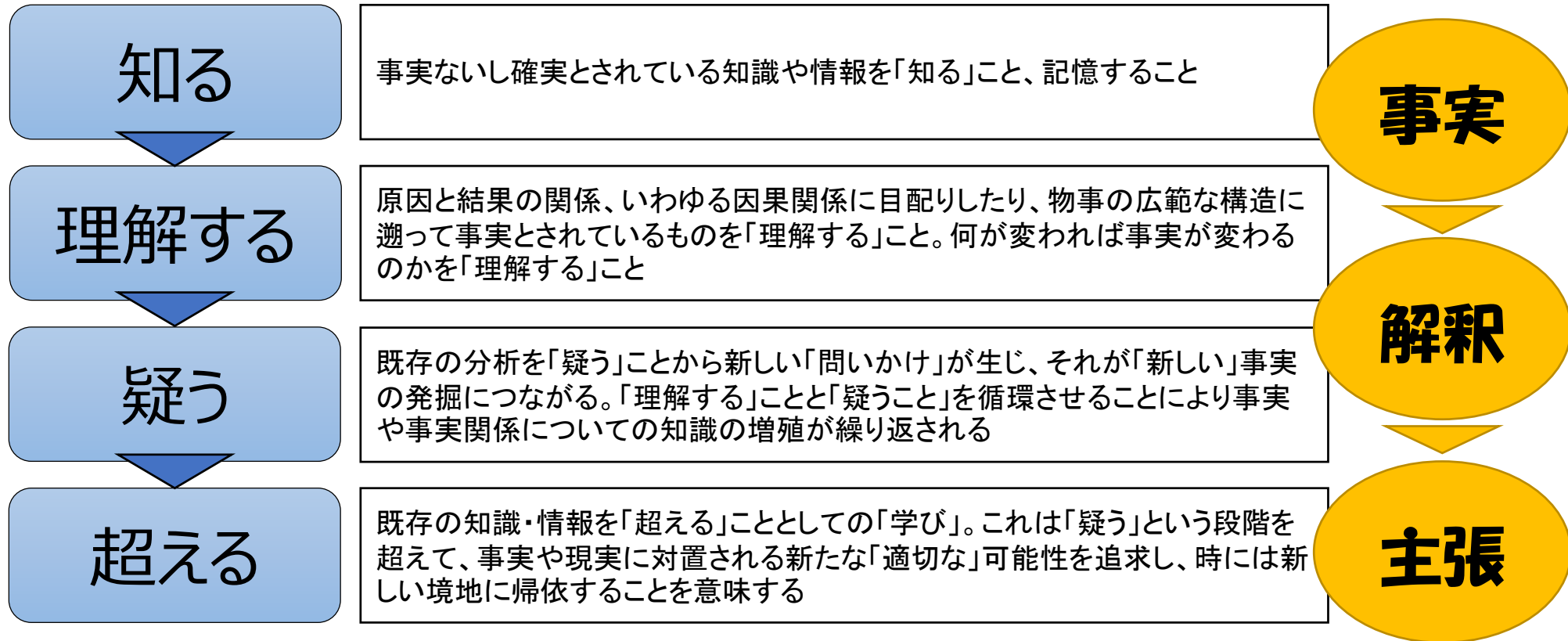
# 主張

例：○○すべき／  
△△すべき

表現, 言葉, 伝達手段,  
慮る, 知識, 勇気, 表情,  
発言, 対話

# 自律的学習サイクルへの考え方のヒント

参考：「学びの4段階」（佐々木毅『学ぶとはどういうことか』講談社 2012）

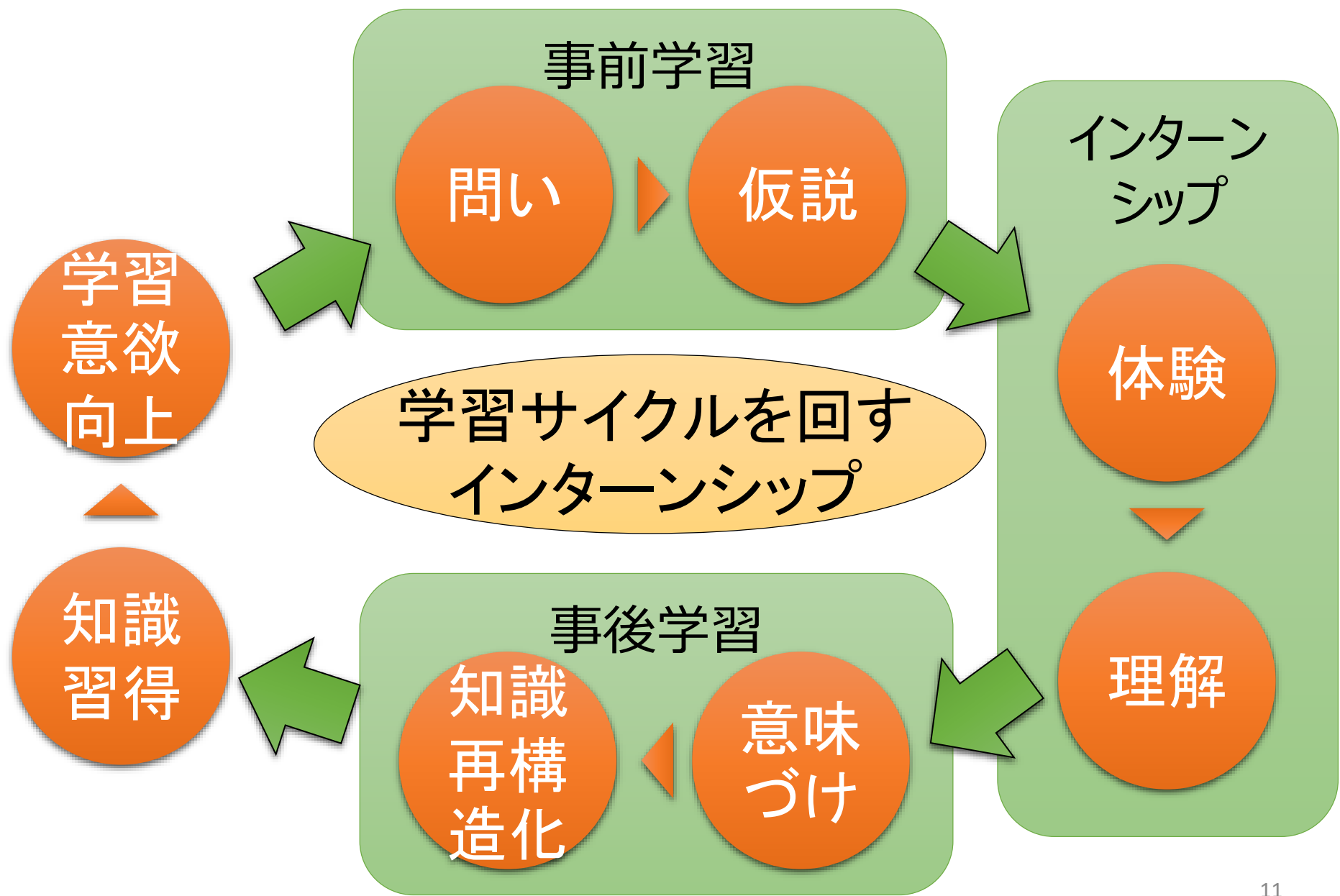


参考：「ブルーム・タキソミー」「タキソミー・テーブル」（米国 教育目標分類学）

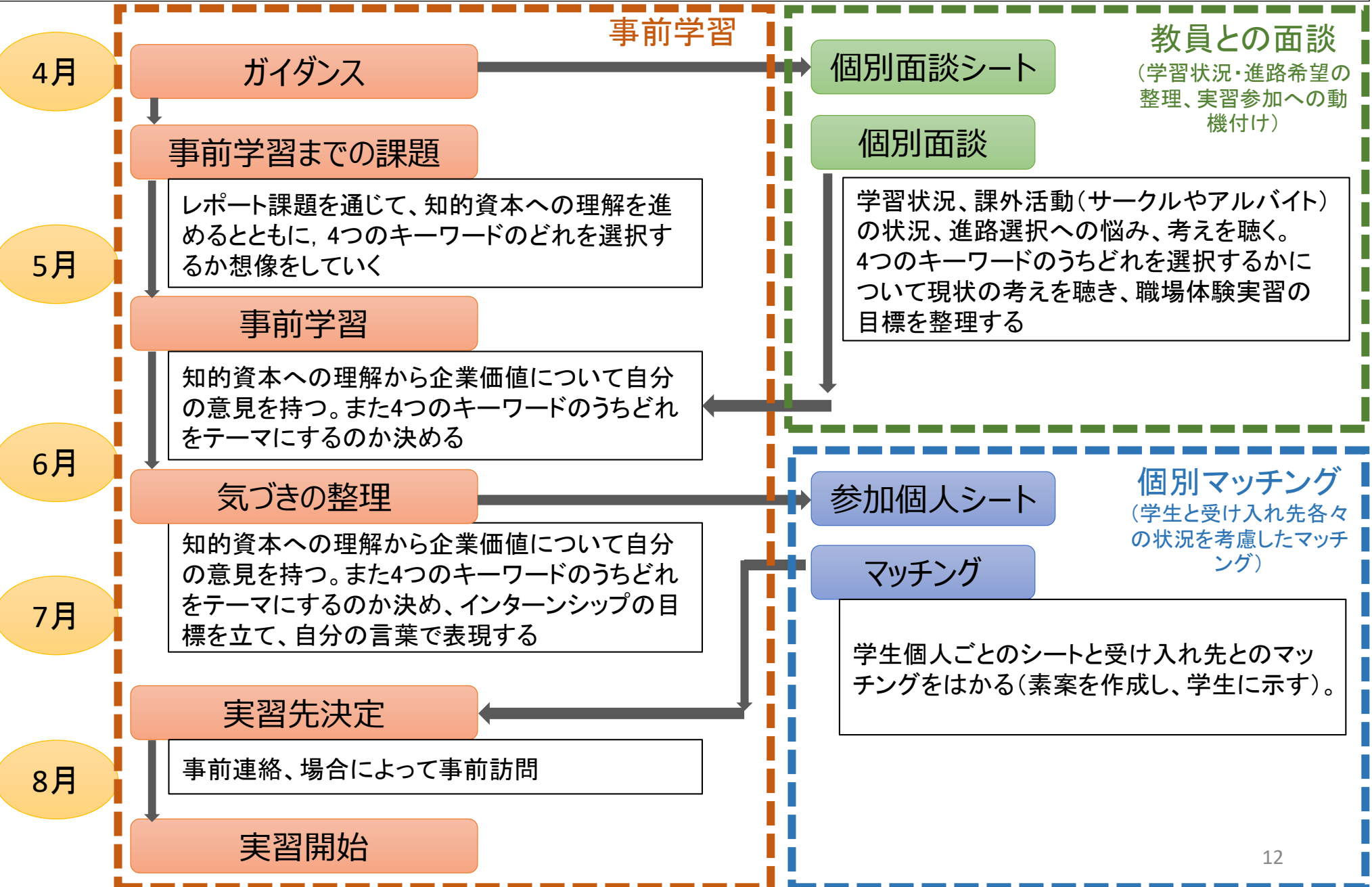
理解する

「記憶する」とは区別され、  
変形（得られた知識について自分の言葉で表現し、答える）  
解釈（得られた知識や情報間の関係を答える）  
外挿（示されていない内容を予想して答える）などの例に示されるレベル

# インターンシップの「教育的効果」への仮説 学習サイクルを回すインターンシップ



# 事前学習から実習開始までの流れ



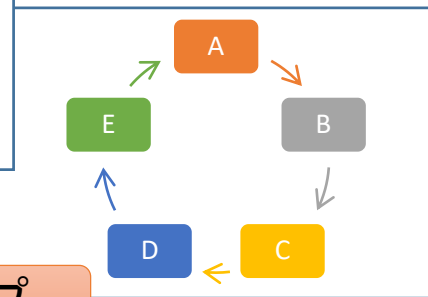
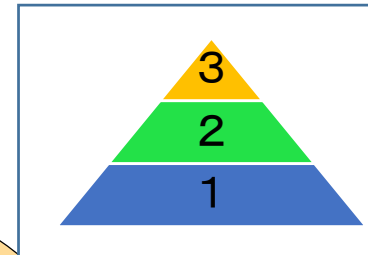
# インターンシップを通じて学生自らが課題を探求する学習サイクル

自主学习(レポート)で  
テーマに関する文献を  
参考に考察

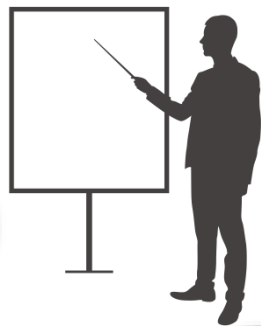


問い

事前学習(グループ  
ワーク)で他者の意見  
も取り入れ、テーマを  
図解で表現



テーマに対する仮説と検証  
(実証)成果を自分の言葉  
で報告発表する



企業(組織)で必要と  
なることを自らの経験  
に基づき、自分の言  
葉で表現する

リーダーシップ

チームワーク

コミュニケーション

チャレンジ

職場体験実習で  
仮説を検証(実証)



仮説

(仮説)企業で必要な〇〇とは  
「」なのではないか?

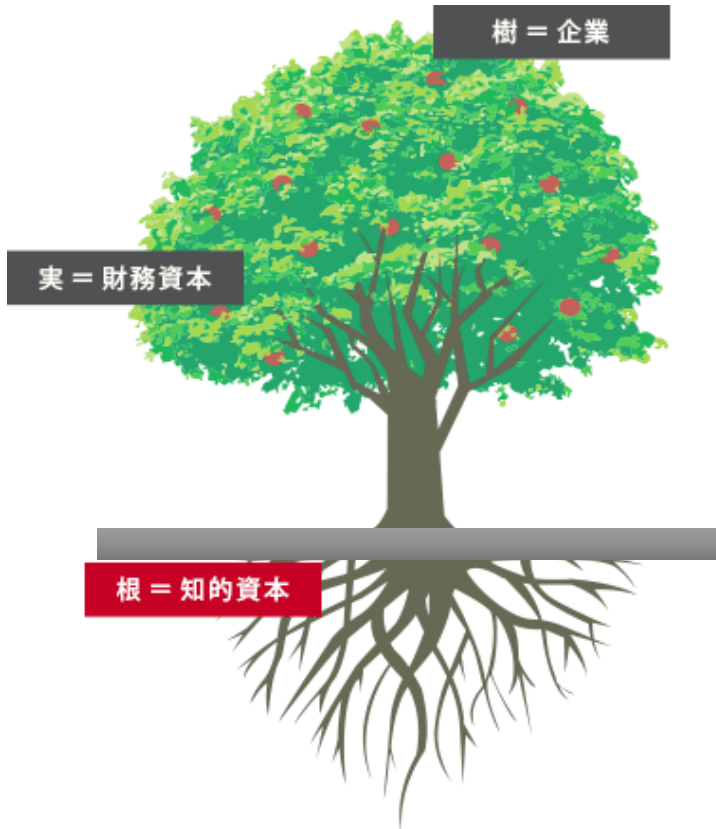
知識  
再構  
造化

意味  
づけ

理解

体験

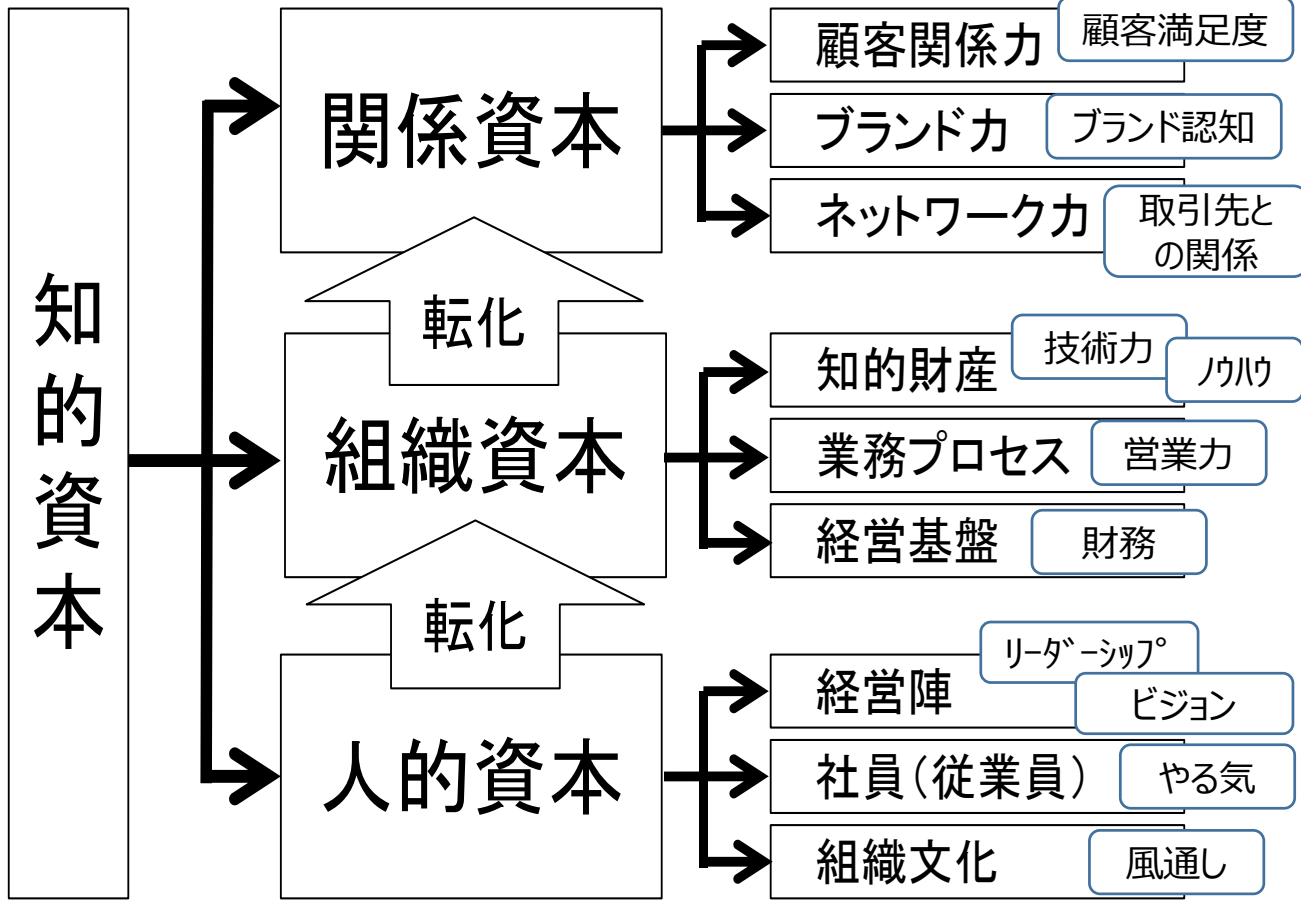
# 目に見えない価値 = 知的資本 への意識と気づき



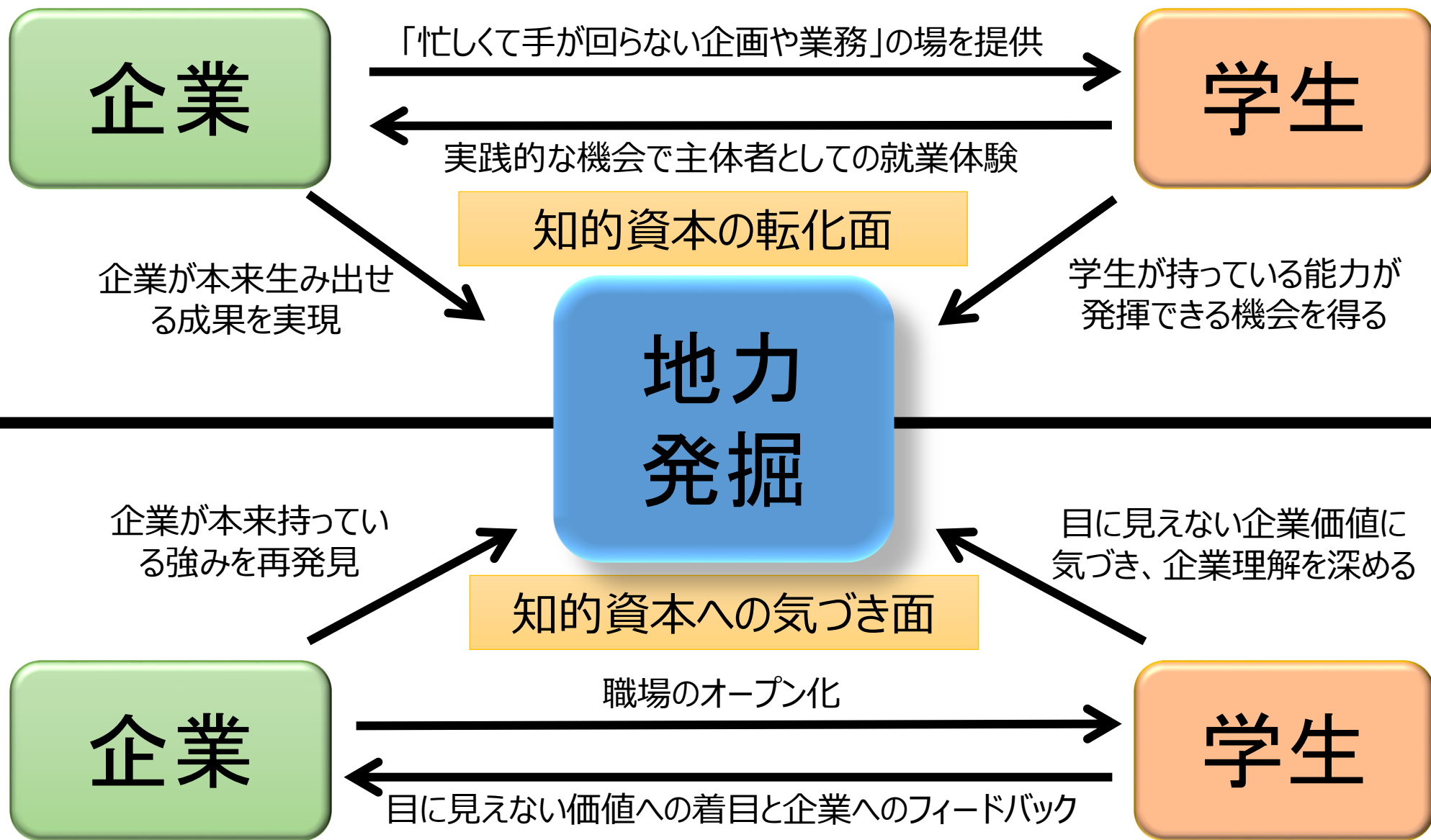
出所: ICMGホームページ

[http://icmg.co.jp/approach/icm\\_02/](http://icmg.co.jp/approach/icm_02/)

目に見える「企業規模」「売上」「福利厚生制度」「残業」「休日」ではなく、目に見えない企業の価値に着目する力を学生に身につけさせたい

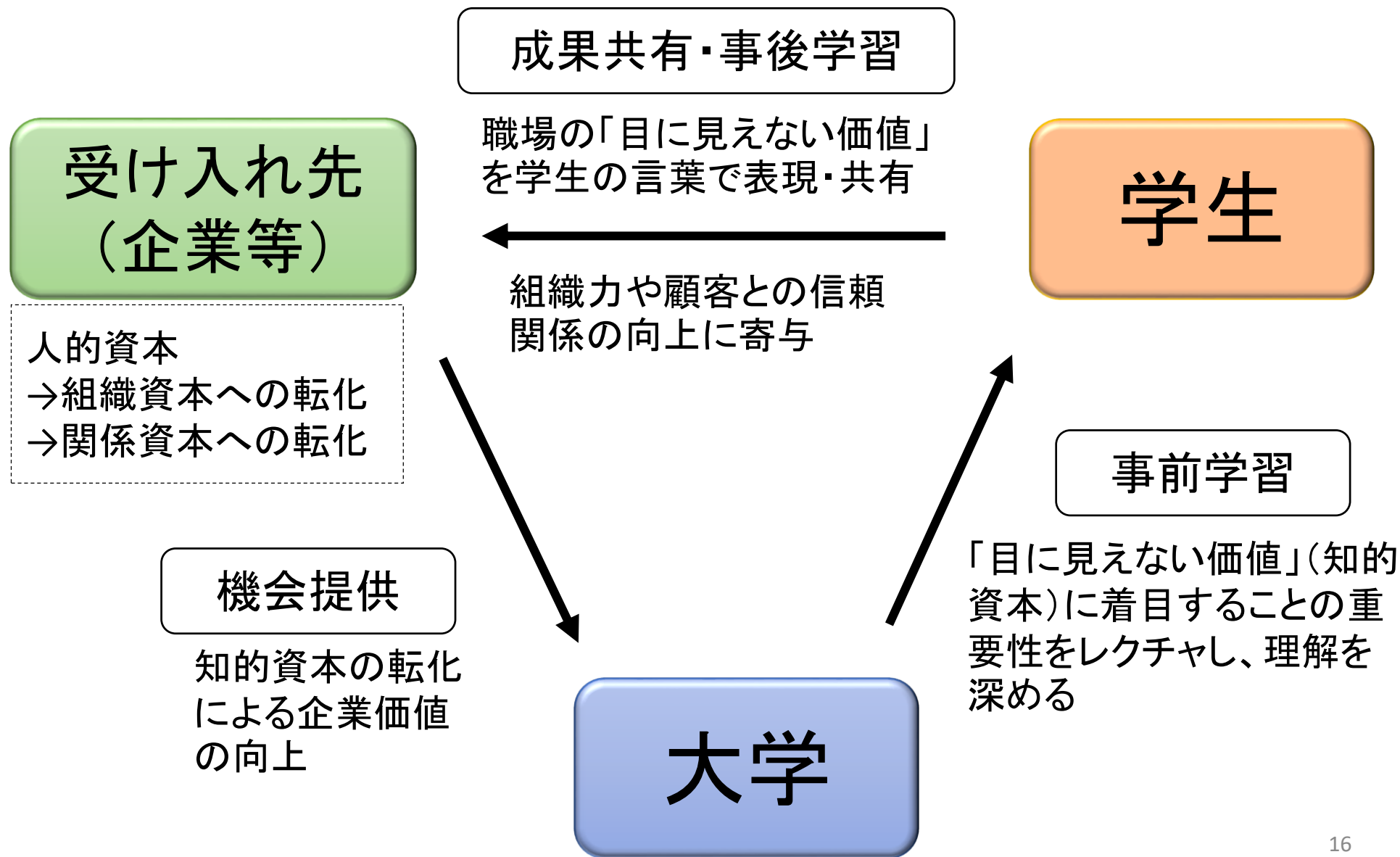


# 地力発掘型インターンシップが目指す2つの面



地力（じりき）とは、「もともと備わっている力。本来の力。」（国語大辞典）

# 地力発掘型インターンシップが目指す三者の関係





# 今回の職場体験実習の目的と受入側の役割

事前学習により4つのテーマについて仮説(例:企業で求められるリーダーシップとはどういうものか、現状の自分に備わっているのかなど)を立て、体験を通じて、検証する

受入側では、学生の仮説や実習での目標を確認し、体験を通じた仮説の検証を支援・指導する(例:実際の仕事ではどのように生かすのか、何が課題なのかを整理する)。そのことが企業や働くことへの理解を高めることにつながる

## 職場体験実習

リーダーシップ

チームワーク

企業活動で求められる能力・姿勢のうち本授業では4つをテーマとする

コミュニケーション

チャレンジ

学生の目標を確認し、実際の仕事ではどうなのかを理解させる

企業の役割

企業で実際に仕事を進めるレベルを基準に学生の取り組み方、能力を評価する

学生の目的

指導役の指導により正社員が行う仕事を体験し、適正な評価を受ける

何ができて、何ができないのかを知る。そのことが大学での自律的な学習意欲、成長意欲の向上につながる

# 受入指導者へのレクチャ例：事前連絡時の留意点

学生側から 指導担当者様宛に連絡

- ・実習日程と時間の確定（原則30時間）
- ・初日の出社時間・持ち物・服装確認
- ・交通手段確認
- ・その他必要な事前確認を行う

静岡大学 学事日程

7月24日～28日 前学期最終授業週

7月31日～8月4日 前学期試験

8月14日・15日 夏季一斉休業  
(8月・9月は夏季集中講義あり)

10月2日 後学期授業開始

指導担当者様へのお願い

- ・実習日と実習時間を学生と調整願います。実習時間は原則30時間です
- ・持ち物や服装についての指示は明確に願います
- ・初日の集合場所(訪ね先)、1日の大まかな流れ、昼食について説明をお願いします
- ・もし訪問の上、事前打合せが必要な場合は学事日程に配慮願います
- ・各企業と大学との協定、覚書は対応しかねます
- ・企業独自の秘密保持に関する書類等への署名、押印がある場合には事前に学生に伝えてください
- ・履歴書や住民票などの提出は求めないよう願います

# 受入指導者へのレクチャ例：実習初日に実施いただきたいこと

## 職場案内(社員への紹介)

## 自己紹介機会の設定

## 管理者・指導担当者との面談

目標の確認

評価の確認

職場ルールを理解

関係構築

(名前を呼ぶ・右記に留意)

### ●面談時に留意いただきたいこと

「就職差別につながる配慮事項」に準拠願います  
(厚生労働省「公正な採用選考の基本」より)

<a. 本人に責任のない事項の把握>

- ・本籍・出生地に関すること
- ・家族に関すること(職業、続柄、健康、地位、学歴、収入、資産など)
- ・住宅状況に関すること(間取り、部屋数、住宅の種類、近郊の施設など)
- ・生活環境・家庭環境などに関すること

<b. 本来自由であるべき事項(思想信条にかかわること)の把握>

- ・宗教に関すること
- ・支持政党に関すること
- ・人生観、生活信条に関すること
- ・尊敬する人物に関すること
- ・思想に関すること
- ・労働組合に関する情報(加入状況や活動歴など)、学生運動など社会運動に関すること
- ・購読新聞・雑誌・愛読書などに関すること

## ■ 職場案内・社員への紹介

学生に自己紹介を促してください（必要なアドバイスをお願いします）  
「顔と名前を覚えること」の大切さを伝えた上で社員への紹介をお願いします  
着眼点や気をつける点を伝えた上で職場への案内をお願いします

## ■ 面談・オリエンテーション

実習全体（30時間）の流れ、初日の流れを伝えてください  
企業側からの課題がある場合は、できるだけ明確なゴールを示してください  
個人シートにしたがって学生自身の目標を説明させてください  
（事前学習資料にも目を通してください）  
評価シートの打合せをお願いします  
（学生の希望を確認した上でシート選択，Bタイプは項目決めを）

## ■ 学生に考える機会をつくる

常に意見を持たせる意識を

例：「どこに気をつければよいと思う？」「どうだった？」

意見や感想を「事実」と「解釈」とに分けさせる

例：「責任の重さを感じました」－「例えばどんな場面で？」

## ■ 日報へのフィードバック

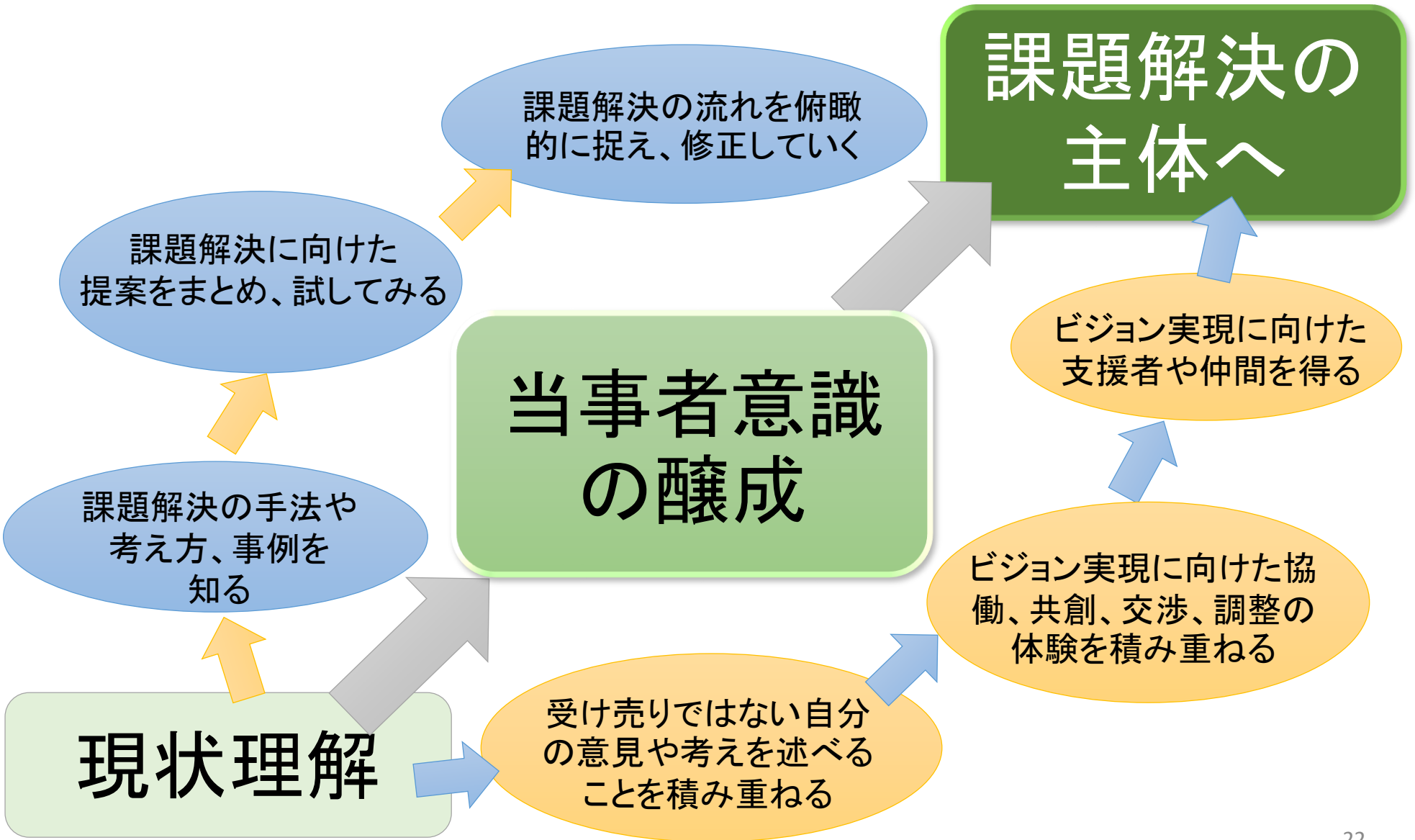
大学からの日報の様式にこだわらず、学生には日々の振り返りを行うことを指示し、可能な範囲で振り返りに対するフィードバックをお願いします

## ■ 実習評価シートの記入

お手数ですが、実習時間を振り返った評価をお願いします

提出はFAX、メール、郵送のいずれかにより大学の方へお願いします

# 課題解決型人材の育成ステップ



## 「企業理解」ではなく、仕事や職場への 「関心・興味」に焦点を当てる

×「分かった？」

○「どこが大変だった？」「何故だと思う？」

## 体験を通して、仕事を「自分ごと」に （当事者意識の醸成）

×「つまりこの仕事のやりがいは・・・」

○「あなたならどうする？」「ほかに方法は？」

# 実習評価シートのタイプ (A : スタンス評価・B : スキル評価)

Aタイプ(仕事への取組み姿勢評価)

AB  
どちらか

Bタイプ(職務遂行能力評価)

挨拶、反応する	自分から進んで社員や取引先、お客様へ挨拶をしたか／目を見る、説明にうなづく、呼ばれたら返事をするなどの反応はできたか
仕事の正確さ	指示された仕事は正確だったか／ミスや間違いをしないよう注意しながら仕事に取り組んだか
処理スピード	指示された仕事の処理スピードは適切だったか 期限や時間を意識し、期待される成果が出せたか
仕事への準備	余裕をもって出社し、準備を整えて仕事に臨んだか／次の工程、予定を考慮した行動、判断ができたか
報告する	指示された仕事について適切な方法、タイミングで報告できたか／必要な中間報告、状況報告があったか
訊く・尋ねる	指示された仕事について必要な質問をしたか／分からないこと、やるべきことを自分から進んで尋ねたか
確認する	メモをとる、復唱するなど仕事を進める上での必要な確認を行ったか／自分勝手な判断で行動、対応しなかったか
考え、工夫する	意見を求められたときに自分の考えを述べたか／仕事の質を意識した工夫や考えの反映があったか
言葉・表現	仕事での言葉づかい、声の大きさなどは適切だったか／説明や意見を述べるときに表現や分かりやすさ、論理性は的確だったか

1.親しみやすさ	2.気配り	3.共感・受容
4.多様性理解	5.役割理解	6.情報共有
7.相互理解	8.意見の主張	9.建設的な討議
10.自己感情認識	11.ストレス対応	12.独自性理解
13.自己効力感	14.主体的行動	15.完遂
16.課題設定	17.因果分析	18.解決策立案
19.行動計画	20.行動を起こす	21.計画修正



# 平成29年度「地域創造インターンシップ I」成果発表会の様子



開会（平岡義和地域創造学環長挨拶）

ポスターを企業担当者・学生・教員で評価、投票し、上位4名は優秀賞として静岡ロータリークラブ例会にて発表

